

静岡放射能汚染測定室だより

第9号

2012年3月30日発行



イラスト 清重伸之

目次

- 測定結果報告 ……2
- 測定についての補足 ……3
- 3月12日（月）
第8回『放射能を話そう♪』
報告と感想 ……4
- 『静岡の娘へ』（8）河野益近寄稿文 ……6
- 瓦礫受け入れ問題について ……7
- いのちを守る
森の防潮堤プロジェクト ……8
- お知らせ ……9
 - 土壌・堆肥等の測定開始について ……9
 - 6月9日（土）『静岡放射能汚染測定室』
会員総会と1周年記念講演会の案内 ……10
 - 第9回『放射能を話そう♪』 ……11
 - プラムフィールドの春休み ……11
 - 「加工食品を測定するときに」 ……11
- 測定室活動日誌 ……12
- プラムフィールドの窓 測定室の風 ……12

会員頒布用価格 1部 500円

測定結果報告 2012年2月8日～2012年3月5日

静岡放射能汚染測定室調べ 測定値の単位はベクレル/kg、()内の数値は検出限界値(単位はベクレル/kg)

・検体重量 (g) ・ND は不検出 ・「↓」は検出限界値以下

	産地	食品名	重量 (g)	セシウム134	セシウム137	合計
※1	栃木県・四国 (養殖)	鮎甘露煮 (発売日H23年12月14日)	520	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	長野県上田市	大豆 (H23年産)	462	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
	ハワイ	ミネラルウォーター (賞味期限H23年12月30日)	596	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県伊豆の国市	玄米 (H23年産)	640	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県熱海市	みかん (H23年産・皮をむく)	629	3	4	7
	熊本県球磨市	玄米 (H23年産)	563	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	栃木県那須塩原市	白米 (H23年産)	554	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	北海道雨竜郡	白米 (H23年産)	587	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県静岡市清水区	ゆず (収穫H23年11月～12月・2回水洗い皮付き)	696	3	5	8
	長野県小県郡	玄米 (H23年産)	573	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	瀬戸内海	煮干し (漁獲H22年)	291	ND (3↓)	ND (4↓)	ND
	徳島県徳島市	番茶 (H22年産)	134	ND (6↓)	ND (10↓)	ND
※2	静岡県藤枝市	緑茶 (碾茶・収穫H22年7月)	135	66	98	164
	静岡県静岡市葵区	いちご (あきひめ・H23年2月13収穫)	635	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	愛知県新城市	鶏むね肉 (加工日H24年2月7日)	680	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	佐賀県小城市	焼き海苔 (主原料: すさびのり・収穫H24年1月)	164	ND (6↓)	ND (9↓)	ND
	愛知県新城市	鶏のきも (肝臓と心臓・加工日H24年2月7日)	726	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
※3	中国等 (漢方薬)・静岡市清水区 (茶葉)	漢方薬液を緑茶 (H23年5月産) に噴霧…12時間後	296	215	322	537
※4	静岡県静岡市清水区	漢方薬液を緑茶 (H23年5月産) に噴霧…18時間後	296	212	317	529
※5	千葉県長尾郡・栃木県那須塩原市	新生酪農ビン牛乳 (賞味期限H24年2月10日)	697	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	長野県安曇野市	キウイフルーツ (収穫H23年秋・1回水洗い皮つき)	664	2	3	5
	茨城県桜川市	白米 (H23年産)	598	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	新潟県阿賀野市	玄米 (H23年産)	570	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	埼玉県久喜市	トマト (収穫H24年2月21日収穫・水洗いしヘタをとる)	646	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	宮城県登来市	白米 (H23年産)	624	2	4	6
	静岡県菊川市	もち米 (H23年産)	614	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	栃木県那須郡那	玄米 (H23年産)	624	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	広島県三原市	玄米 (H23年産)	658	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	長野県内	玄米粉 (H22年産・賞味期限H25年1月)	423	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
	新潟県五泉市	玄米 (H23年産)	600	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	長野県飯山市	エノキ茸 (収穫H24年2月22日・洗わず根元をカット)	520	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
	奈良県吉野郡	原木生しいたけ (収穫H24年2月22日・洗わず石づき付き)	345	ND (3↓)	ND (4↓)	ND
	青森県弘前市	白米 (H23年産)	616	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
※6	パプアニューギニア周辺	かつおかれぶし削り節 (碎片) (製造日H24年1月24日)	156	ND (6↓)	ND (9↓)	ND
※7	不明	削り節 (かつお節4: さば節6・製造日H24年2月21日)	201	ND (4↓)	ND (6↓)	ND
	静岡市葵区	簡易水道水 (採水日H24年2月28日)	580	ND (2↓)	ND (2↓)	ND

	産地	食品名	重量 (g)	セシウム134	セシウム137	合計
※8	静岡県富士市	鶏卵 (採卵日H24年2月中旬)	532	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
※9	静岡県伊豆の国市	飲用茶 (H23年5月産)	637	5	8	13
	静岡県熱海市	はっさく (H24年1月末～2月初収穫・水洗いし皮をむく)	709	1	2	3
	静岡県富士宮市 (陣馬の滝)	湧水 (H23年12月未採取)	570	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
	茨城県	さつまいも (購入日H23年2月28日。水洗いし皮つき)	554	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	広島県世羅郡	原木生しいたけ (購入日H24年2月24日・洗わず石づき付き)	635	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	宮崎県東諸県郡	天日干し切干大根 (H23年11月～24年1月収穫)	248	ND (3↓)	ND (4↓)	ND
	静岡県静岡市駿河区	ネーブル (H23年11月収穫・水洗いし皮をむく)	738	ND (1↓)	ND (1↓)	ND
	熊本県宇土市	玄米 (H23年産)	661	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県富士宮市	白米 (H23年産)	694	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
★1	岩手県下閉伊郡山田町	岩手県山田町現地での収集瓦礫 (収集H23年12月20日)	151	ND (6↓)	ND (9↓)	ND
★2	岩手県下閉伊郡山田町	静岡県島田市試験焼却の瓦礫 (試験焼却2月16日・17日)	258	ND (3↓)	ND (5↓)	ND
★3	岩手県下閉伊郡山田町	静岡県島田市試験焼却残り灰 (試験焼却2月16日・17日)	956	17	25	42
★4	静岡県静岡市葵区	小川の川底の砂	1302	ND (1↓)	ND (2↓)	ND

測定についての補足

※1 栃木県大田原市の名産品。鮎は全て養殖で、栃木県産も含まれるが四国産が多く、毎年、秋から冬にかけて獲れた魚を冷凍で仕入れ、随時、甘露煮にしている。製造元にて確認。

※2 「碾茶」とは、新芽が吹く4月頃から30～60日間くらい被覆栽培した茶葉を蒸した後、揉まずに葉の形のまま一枚ずつ乾燥させて葉脈や茎を取り去ったお茶で、「抹茶の原料になる茶葉」のこと。

※3, ※4 漢方薬20種類をブレンドした漢方薬液を、茶葉に霧吹きでふき噴霧し、12時間後・18時間後の茶葉の放射能の値を調べた。試料茶葉は測定室だより6号で報告した静岡市清水区産緑茶を使用。(茶葉の定量はセシウム134 243 Bq/kg セシウム137 338 Bq/kg 合計 581 Bq/kg)

※5 生活クラブ生協のパスチャライズド牛乳。栃木県内27軒、千葉県内32軒が生産者。工場は栃木県那須塩原市と千葉県長生郡にある。

※6 H23年6月20日に焼津港に水揚げ。(製造元のお客様窓口に確認)

※7 静岡県牧之原市相良と静岡市清水区由比の加工場から仕入れた原料を使用。製造者は島田市削り節店

※8 海拔340mの富士高原にある養鶏場。鶏舎は開放型。非遺伝子組み換えの自家配合飼料・地下340mから汲み上げた富士山の伏流水使用。

※9 茶葉30g(6人分)を80℃に冷ました湯700mlで1分間蒸らして飲用にした一煎目

★印は、測定室の調査測定品です。

★4 3月23日～25日まで静岡に滞在する福島県飯館村の子どもたち(保養プロジェクト)が遊ぶ施設周辺の小川の底の砂。



漢方の薬液と茶葉



測定試料のえのき茸

■ 第8回『放射能を話そう♪』3月12日(月) 報告

進行：スタッフ 榛葉真理子 ・スカイプ部：浅羽愛 ・報告：スタッフ 伊藤美智代

参加者：23名(内男性3名) 乳幼児6名(会員13名、一般2名、スタッフ8名) スカイプ参加者：1名



今日は、朝日連峰の山懐にいだかれた山形県白鷹町からの特別ゲストお二人も参加してくださり、お子さん連れの方も多くにぎやかな会でした。

参加者の自己紹介では、放射能に向き合い1年が経過しそれぞれの想いの変化、食のこと、そして瓦礫の広域処理について意見が出ました。

測定室より、瓦礫の広域処理については「国が根拠としている法律」などを紹介しながら、どんな気持ちでこの問題と向き合い続けたら良いかを話しました。

◎行政は敵ではない、ウソはつかない。⇒情報公開を求めていく・知りたいことは自分たちで聞いていく。

◎放射能についての対応が違うからと政治家を恨まない⇒投票する私たちがどの様な人を選ぶか考

え直す必要がある。

長い付き合いになる放射能と向き合うには、効率良く腹を立てること。なるべくニコニコして、楽しそうに放射能と向き合っていくと、周りの人たちに伝わっていくものがあるのでは？どんな状況になっても子どもも自分も元気でいられるように、スキんシップをしたり(たとえば、自分でほったスリスリ)、お風呂で体を温めたり、「買い物3分活動」…お店で測定値を聞く→測っていないものは購入しない。また、春の嵐が吹くこの時期は例年、全国的に空間線量が増える傾向にあり、その原因は中国からの黄砂に放射能が含まれているため。放射能と一緒にダイオキシンなどもついてくる。花粉が舞う時期でもあるので、マスクをかけるのも良い。降り始めのパラパラ雨は汚染が強いので要注意。

測定開始から「食べもの」に限って測定をしましたが、これからは、子どもたちが育つ環境を観察するためにも、幼稚園や公園の土なども測定し、「放射能安心マップ」を作り、自治体などに届けたいと思っているので、ご協力ください。畑の土や堆肥なども測定する事により、安心して作付が出来るようにデータを出していきたい・・・など、話をしながら、白鷹農産の素朴でやさしい加工品の試食もしました！

◆ 参加者の感想

静岡市 T・O

2月に会員になったばかりで、出かける時からドキドキ。不安と楽しみの入り混じったなんとも言えない気持ちを抱えながらの初参加となりました。

自己紹介の順番になった時、この一年間の自分の想いが押し寄せたのか(もともと泣き虫かな?)涙が出てしまい、その場を暗くさせてしまったようで申し訳なかったです。

今までも決して食品選びに無頓着だった訳ではありませんでしたが、放射能の問題は、食べ物から世の中の成り立ちまで、物事のうわべしか見て来なかった事を実感させられ、自分の生き方を問う事につ

ながりました。

馬場さんが、普段スーパーはほとんど利用されないとお話されていましたが、不安を抱えながら食品選びをしているなかで、気がつく、私もスーパーから足が遠のいていました。

有害物質の最強の放射能が近づくまで気がつかなかった‘ばあば’ですが、今回参加させて頂いて、まだ諦めず、皆さんから学びたいと思いました。

場さんをはじめ、ずっとその場を維持されて来られた方々には、本当に感謝しています。ありがとうございました。

私は山形県の西置賜郡白鷹町の白鷹農産加工研究会で農産物生産と加工販売をしています。30年前、農家が集まり立ち上げた小さな会社です。無農薬、無化学肥料で生産し、首都圏で働く人々や生協に販売しています。馬場さんにお会いするのは2回目です。福島県で現地のお母さん方とお話されている時、お会いしたのが初めてで、その後、私たちの畑の土の放射能検査でお世話になり、ご縁が出来て事務所に寄らせていただきました。

山形は、福島原発から120Kmの距離に位置します。無農薬・無化学肥料で作付けして30年、発足当初から水田の農薬散布反対や減反拒否、周囲から変わり者扱いでした。それでも買い支えて下さる人があり、地域でも支援者が増えてきた矢先の原発事故に、「今までの30年が奪われた」という思いと、これからどうすれば良いのか、思い悩む毎日が続きました。それでも畑では菜の花が咲き、いつもと変わらぬ風景にも心が重く、+農作業を続けていましたが、個人発送の野菜パットの会員さんから「山形も放射能高いよね」の一言に

「それでも作付けして、私達は食べてます！」と感情が表にでてしまうほどでした。

放射能は目に見えない恐怖と不安を私達に突きつけました。取引業者の中には1Bq/kg以下で無いと取り扱いしないという所も出てきました。

この間、世間では「風評被害」が取りざたされてきましたが、この風評被害と言う言葉は間違いだと思います。福島の原発事故が東北、関東に放射能汚染をもたらした事実をごまかす最大の表現だと思います。

『放射能を話そう』に参加されている方は、いずれも幼いお子様をお持ちのお母さん方で、子供の食に感心を持たれ、静岡での瓦礫処理引き受けや静岡の環境汚染を心配されている方が、自分を取り巻く全てに不安を感じ参加されているのだと感じました。原子力はウラン採掘から始まり、この採掘時から大量の土砂や汚泥が放射能汚染をお越し、ここで働く人は当然放射能を浴びながらの労働をしています。原発で働く労働者も同じように放射能に曝されながらの労働です。こんな理不尽な全ての原発を廃炉にしましょう。

トピック ◆季節風と放射能と花粉症

2月末から、大阪や北陸地方の空間放射線量が高くなっている事にお気づきでしたか？

◆大気中の環境放射線量◆

都道府県	5日	三	重
北海道	0.038	0.078	0.080
青森	0.015	0.063	0.078
岩手	0.041	0.102	0.078
宮城	0.060	0.078	0.078
秋田	0.063	0.080	0.080
山形	0.075	0.102	0.102
福島	0.038	0.080	0.080
茨城	0.088	0.080	0.080
栃木	0.084	0.080	0.080
群馬	0.083	0.077	0.077
千葉県	0.081	0.081	0.081
東京都	0.073	0.084	0.084
神奈川県	0.074	0.084	0.084
新潟	0.076	0.081	0.081
富山	0.056	0.059	0.059
石川	0.071	0.059	0.059
福井	0.058	0.043	0.043
山梨	0.075	0.053	0.053
長野	0.076	0.034	0.034
岐阜	0.070	0.031	0.031
愛知	0.079	0.020	0.020

◆大気中の環境放射線量◆

都道府県	23日	三	重
北海道	0.038	0.060	0.060
青森	0.020	0.040	0.040
岩手	0.034	0.081	0.081
宮城	0.068	0.068	0.068
秋田	0.081	0.077	0.077
山形	0.085	0.078	0.078
福島	1.061	0.078	0.078
茨城	0.002	0.000	0.000
栃木	0.081	0.080	0.080
群馬	0.080	0.080	0.080
千葉県	0.054	0.078	0.078
東京都	0.071	0.081	0.081
神奈川県	0.081	0.080	0.080
新潟	0.047	0.082	0.082
富山	0.073	0.059	0.059
石川	0.077	0.056	0.056
福井	0.059	0.059	0.059
山梨	0.083	0.049	0.049
山梨	0.080	0.040	0.040
長野	0.070	0.051	0.051
岐阜	0.067	0.032	0.032
愛知	0.055	0.031	0.031
愛知	0.066	0.020	0.020

H24年3月5日

1月25日

新聞に掲載される全国のデータを見ても、静岡も通常0.03μSv/hくらいからぐんと上がっているの

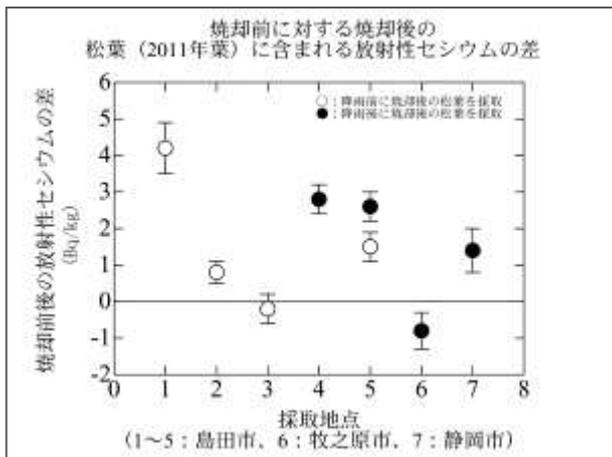
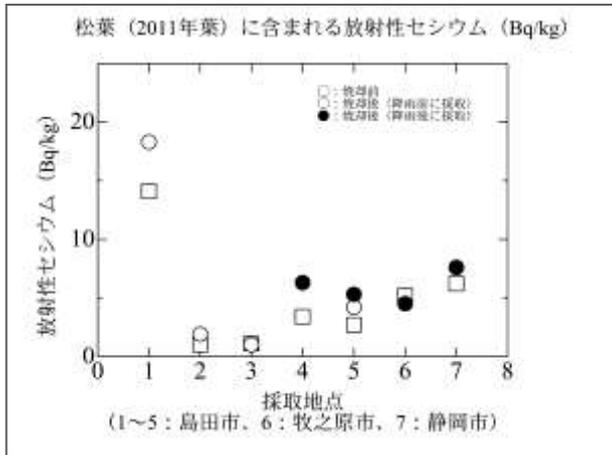
で、「花粉に放射能がついてくると言われているのは本当なのかしら？」と話しましたが、アドバイザーの河野さんに尋ねますと「ああ、黄砂の影響でしょうね。毎年、春は季節風で中国からの黄砂で放射能を運んでくるので、放射線量は上がるのです。こんなもんですよ。」と明快なお返事でした！

毎年！？だったのですねえ～！？
事故以来、放射線量上がるのは、福島原発からの放射性物質が原因だと思っただけでしたが、放射能は中国の核実験による影響など、これまでの放射能汚染が地球を回ってやって来ているのですね。福島の事故前も、春は季節風で放射能が多く舞っていた事を改めて知った春です。

こうなれば、花粉症でなくても春のファッション=可愛いマスクは必須アイテムになりそうです！！
プラムフィールドでも手作りマスクが人気です♪

今日は島田市の調査結果について書いています。震災遺物（瓦礫）の焼却前と後の松葉に含まれる放射能の測定結果です。

採取場所はすでに承知していると思うので、ここでは重複を避けます。



焼却後の測定で、高い放射能を示す松葉があったので、一部は再度採取してもらい、枝付きで送ってもらいました。2010年葉が混入すると、放射能の値がまったく変わってくるからです。

再度の採取のため、新たに降雨という不確定要素が加わってしまいました。

測定結果について簡単なコメントをしておきます。まず、震災遺物（瓦礫）の試験焼却による汚染の可能性が考えられる部分。

① No.1の放射能が、試験焼却後により高くなっています。試験焼却前でも他の採取場所に比べて高いことを考えると、焼却場で日常的に焼却されるゴミに含まれる放射能（静岡県のゴミには、少しですが福島原発からの放射能が含まれています）が溜まりやすい場所なのかもしれませ

ん。

② No.2は、放射能は少ないのですが、焼却前後の比は約180%になっています。

③ No.4、5も焼却後に高くなっていますが、焼却とは無関係の静岡市内も少し高くなっています。これは降雨による影響だと思いますが、No.5については、焼却後の降雨前に採取した松葉の放射能もわずかですが高くなっているため、降雨の影響が無くても高かった可能性があります。

また、比率で見ると静岡市内は約120%であるのに対して、No.4は約180%、No.5は約190%（降雨前は約150%）となっており、静岡市内に比べて増加した割合は大きくなっています。



河野さんの測定器

以上が震災遺物（瓦礫）の焼却による影響を示唆する結果です。風が谷に沿って流れ、島田市内を東へ向かったのかもしれませんが。

しかし、松葉は環境試料（環境条件に左右される試料）なので、焼却の影響の可能性を示唆してはいますが、今回の結果をもって即断することは難しいかもしれません。

降雨の影響を考えなくてもよい試料でも、焼却前よりも比率で約20%低い場所（No.3）や、降雨後については約20%高い場所（焼却とは無関係の静岡市内）があります。

焼却が継続されるようであれば、継続した調査を行う必要があります。焼却される放射能の総量が多くなれば、環境に放出される放射エネルギーも多くなるので、焼却の影響の有無を明らかにできると思います。

大切な娘へ、 今回は真面目な京都の父より

島田市が瓦礫の受け入れのための試験焼却を実施したのは2月16日でした。この結果を島田市は、『静岡県島田市田代環境プラザにおける岩手県山田町の災害廃棄物を含む試験溶融（焼却）に伴う放射能濃度他測定結果一覧』として公表し、
<http://www.city.shimada.shizuoka.jp/mpsdata/web/7576/kekkaichiran.pdf>

「焼却残り灰が 100 Bq/kg 以下であった事により、安全性が確認され、市民の同意が得られた」として、受け入れを正式に表明しました。その後、島田市の決定だけでなく、全国で瓦礫受け入れを検討する自治体が出てきていますが、島田市で受け入れに反対している人々たちによって、試験焼却による放射能の動向について、次のように試算がされています。



島田市が受け入れた瓦礫
 左：2月17日撮影
 中：2月19日撮影
 右：島田試験焼却残り灰



★試験焼却された廃棄物総量 (68,689kg) に含まれるセシウム 134 と 137 の総計は
 廃棄物の放射能 8.275 Bq/kg × 68,689 kg = 568,401 Bq

★焼却後の残り灰（原灰）から導き出された放射性セシウムの総量は
 96 Bq/kg（島田市の公表値）×原灰総量 3,610kg = 346,560 Bq

投入された放射能総量 約 57 万Bq—原灰の放射能総量約 35 万Bq=約 22 万Bq・・・が行方不明！！

つまり、空気に放出されているのではないかという質問書を島田市に出したそうですが、その返答より先に、島田市は受け入れを決めた訳です。

島田市は放射能濃度 15.2 Bq/kg の瓦礫を 10 t 受け入れましたから、受け入れ瓦礫の放射能量は
 $15.2 \times 10,000 = 152,000 \text{ Bq}$

市民が暮らす街に たった 10 t で 15 万Bqの放射性物質を持ち込んだ訳です。これ以後、総量何トンの受け入れをするのでしょうか？

静岡県も福島原発事故による放射能の汚染を受けていない訳ではありません。

■単純化して考えてみましょう？

以下の表は、島田市に搬入された瓦礫の放射能の濃度です。

搬出前の災害廃棄物の放射能濃度測定結果				
測定：岩手県環境保健研究センター（単位はBq/kg）				
測定日：平成24年2月8日（水曜日）				
試料採取は2月7日（火曜日）（*1 静岡県HPより）				
	組成	セシウム 134	セシウム 137	セシウム (134+137)
試料1	木材チップ	6.5	8.7	15.2
試料2	木材チップ	6.2	9.6	15.8

ゲルマニウム半導体検出器型式：
 ORTEC 製_GEM30-70-XLB-C

■静岡市を例におおよその試算をしてみます。
 静岡市の生活ごみ焼却灰の放射能濃度は 287 Bq/kg (*2 平成 24 年 3 月 5 日時 静岡市 HP 公開データ) <http://www.city.shizuoka.jp/000112436.pdf>
 平成 22 年度実績で、焼却場 2 施設で出た焼却残り灰、飛灰総量は約 25707 t (*3) ですから、
 1 年間のごみ焼却処理で出る総放射能濃度は、
 $287 \text{ Bq/kg} \times 25,707,000 \text{ kg} = 7,377,909,000 \text{ Bq}$

静岡市内だけで1年間に73億7790万9000Bqの放射能が最終処分場に集まります。

この数字を見て、静岡市が他県の放射能を受け入れる余地があるのかどうか、私には分かりません。

(*3のデータは、静岡市廃棄物処理課に電話での聞き取り調査をし、提供いただいた数値です)

■瓦礫の利用方法の提案をご紹介します。

宮脇昭さんが提唱されている“いのちを守る森の防潮堤プロジェクト”です。

津波からいのちを守る「森の防潮堤づくり」を進めている宮脇昭さんは、「ガレキは単なる産業廃棄物ではない。それぞれの生活の場にあったものが、地震や津波で破壊されたものであり、そこに住んでいた人にとっては、思いのこもったものも多いはずである。ゴミとして安易に焼いたり捨てたりすべきではない。使えるものは再利用し、毒と分解困難なものを

を取り除けば、あとはすべて地球資源として活用する。」として、被災地の海岸線に沿って、瓦礫を活用した大きな盛土の上にふるさとの森をつくり、ソフトな防潮堤とする事を提案されています。

この防潮堤を作る為の植樹方法は、世界中の1700カ所以上で、4千万本を超えるふるさとの森づくりを行ってきた宮脇昭氏の確立した方法で、森づくりを行う土地の盛り土材料として、震災により大量に発生した瓦礫を活用する事で、復興を進めようという提案です。

被災地の復興を助け、後世に生命をつなぐこのプロジェクトを進め、巨大津波に対応できる海岸線を作り出す、コンクリートの建造物ではない「森の防潮堤」づくりは、関東大震災の瓦礫で横浜の山下公園が作られたように、人が手を加えて更なる共生の自然環境を作る良い手本となると思います。



いかがでしょうか？宮脇さんの紹介は http://www.youtube.com/watch?v=gDOEs2_ONGM でご覧ください。

■測定をした食品を使わせていただきました

測定を終えて測定室に残った食品を、福島の子供たちに食べてもらえるよう届けさせていただく事にしていますが、今回は、飯館村から来静した11家族が保養プログラムで滞在する時の食事に使わせてもらいました。(3月23日(金)~2泊3日のわくわくピクニックにて) 白米 5kg、鰹削り節、海苔、塩など、測定し、安全を確認できた食材を提供することが出来

ました。

測定をして下さった皆さんに感謝いたします。



測定室よりおしらせ

■ 土壌、堆肥等の測定開始について

私たちは、昨年6月11日より食べ物に限って、放射能測定を行ってきましたが、事故後1年を期して、子どもたちの育つ環境や、農産物が育つ土を測定する事で、より安心な暮らしを築くために、【土】【有機堆肥】【遊び場の砂】【子どもたちが遊ぶ森など土・腐葉土】【校庭の土】などの測定を始めます。

これまで、各方面から畑の土や幼稚園、学校、公園の土などの測定依頼を頂いていましたが、土などの環境試料のセシウム定量は、放射性核種の性質上、難しいため、スタッフが定量に慣れるまで、時間を頂いていました。これからは、食べ物の測定と並行して、環境試料の測定も行いたいと思います。

要望があれば、希望者の在住する地域単位で、公園、幼稚園、保育園、浜辺などの【土】を測定し、【子どもの育つ環境安全マップ】を作るお手伝いもしたいと思っています。

■ 地域単位の安全マップ作成を希望される方は、測定料など個人の負担を少なくしたいと思いますので、ご相談ください。測定する事で、安心を繋ぐ環境を知りたいと思います。

＜土壌測定を試料採取方法について＞

■ 土壌、堆肥用の測定申込書に必要事項を記入して申し込み下さい。HP上でもダウンロードできます。

＜試料採取に関するお願い、採取方法＞

- ① 野外の土、堆肥などは、晴れた天候が2～3日続いた後に採取して下さい。(重量あたりで評価しますので、同じ試料でも含水率の違いで答えが違ってくるためです。雨の直後は雨水の重さが試料の重さに加わるため、重量あたりの測定結果が低くなります。)
- ② 土壌は、金属、木片、大きな石等異物が混入しないように採取して下さい。(土以外の物が混ざっていると、同じ試料でも測定値が違ってきます)
- ③ 土(堆肥、川の砂など)は、測定容器に入る 800～1000ml を用意して下さい。重量ではなく、この体積を準備して下さい。
(お手元に10入りの牛乳パックがあれば、綺麗に洗って乾かし、パックにしっかりと詰めて下さると、量が分かりやすいと思います。そのままお送りください。)

④ その他

試料採取に関しては、HP トップ、最上部に要項を掲載しますので、参照ください。

インターネットを利用されない方は、電話で詳細をお問い合わせください。

2012年3月14日
あさひ
東京電力福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が、30センチの深さまで浸透している可能性があると、研究チームが発表している。除染作業にどのような影響があるかを調査している。この地帯のその後の変化を予測する。放射性物質は種類ごとに土への吸着力が異なるにもかかわらず、土中と同じような速さで下方に移動することが判明した。降った雨水に押し流される影響が大きいと考えられるという。

この状況が繰り返さず、事故から1年で少なくとも地表から10と30センチに分布し、放射性物質の濃度が最も高くなる場所も、6月時点の深さ2センチ以内から、4と8センチまで下がる可能性がある。調査した6月以降、梅雨や台風などで雨が多かったことから、さらに深くなる可能性もある。チームは3月に再度、土を採取し調べている。

第1原発から半径20、80キロの福島県二本松市、川俣、浪江町の計11カ所、深さ1層の板状の土壌を採取し、セシウム137など4種類の放射性物質の分布を調べたところ、地表から深さ5センチ以内には限られていた。

東京電力福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が、30センチの深さまで浸透している可能性があると、研究チームが発表している。除染作業にどのような影響があるかを調査している。この地帯のその後の変化を予測する。放射性物質は種類ごとに土への吸着力が異なるにもかかわらず、土中と同じような速さで下方に移動することが判明した。降った雨水に押し流される影響が大きいと考えられるという。

この状況が繰り返さず、事故から1年で少なくとも地表から10と30センチに分布し、放射性物質の濃度が最も高くなる場所も、6月時点の深さ2センチ以内から、4と8センチまで下がる可能性がある。調査した6月以降、梅雨や台風などで雨が多かったことから、さらに深くなる可能性もある。チームは3月に再度、土を採取し調べている。

■6月9日(土)、「静岡放射能汚染測定室」再開1周年総会と記念講演会開催

6月9日(土)、『静岡放射能汚染測定室』会員総会と1周年記念講演会を行います。

素敵なひと時をご一緒下さい♪

会場：静岡市葵生涯学習センター（通称 アイセル21）

住所：静岡県静岡市葵区東草深町3番18号

●**会員総会** 13:00～13:45 参加資格は議決権のある会員 部屋番号は次号通信

●**記念講演会** 14:00～16:00 1階大ホール

<小出裕章さんのお話とウォン・ウィン・ツァンさんのピアノ演奏>

講師：小出裕章氏（京都大学原子炉実験所・当測定室アドバイザー）

<http://hiroakikoide.wordpress.com/>

インタビュアー：ウォン・ウィン・ツァン（ピアニスト・作曲家）

<http://www.satowa-music.com/profile.html>



参加費：会員 500円・一般：1000円

定員：300人

参加申し込みは 4月6日(金)より HPのフォーム TEL, Fax, 来店いずれかをお願いします。

参加費の振込が確認できた方から予約を確定し、先着300名になり次第、予約を締め切ります。

HPフォーム・TEL, Fax, でお申し込みの方は、チケットを『測定室だより10号』と一緒に送ります。

この会では、事前に皆さんから小出裕章さんへの質問をお受けして、

その質問をインタビュアー ウォンさんが参加者の皆さんと小出さんのお話を共有します。

小出さんへの質問は、Fax, またはメールでお寄せください。

●**講演会終了後、交流会（夕食会）を開きます。参加申し込みをしてください。**

会場：静岡駅近くのお店を予定。詳細は追ってお知らせします。

会費：5000円未満（飲み物、アルコールを含む）

時間：17:30～20:30

●**遠方からの参加者の方から、希望がありましたら、午前中に測定室の見学もお受けします。**

■“第9回、放射能を話そう♪！”～スカイプ参加も歓迎します～

日時 : 4月26日(月) 10:00~11:45
場所 : 静岡放射能汚染測定室(プラムフィールド)にて
会費 : 会員 300円
一般 500円
(お茶付き)



■プラムフィールド&測定室の 春休み ♪

プラムフィールドは

3月29日(木)～4月4日(水)まで
～春休み～を頂きます。

★測定室はこの間★、

3月29日(木)、30日(金)は午後13:00～
4月2日(月)、3日(火)、4日(水)は
10:00～11:30 オープンします。

測定品の搬入、お問い合わせ等は、ご不便をかけますが開設日時を確認の上、よろしくお願ひします。

■測定室から『加工食品を測定するときに』 測定報告担当 伊藤美智代

測定品の状態を知るために、次の事を確認いただくと、放射能汚染についてだけでなく、加工食品の作られ方も分かって食べ物の事を知る機会にもなると思います。

原材料の生産(収穫)時期の確認

(大きくいうと震災前 or 震災後)

測定しようとする食品の製造日や賞味(費)期限だけからは判断がつかないものもあります。食品によっては、製造年度の原料でなく、前年度・前々年度の原料を使用していることもあります。

(例:みそ、めん類など)

また、加工食品を測定する場合、材料が複数あるので、どの原料について汚染状況を知りたいかを明確にしておく確認しやすいです。

現在の表示は、賞味期限を表示してあるものが多く、製造年月日の表示のものは少ないので、
→製造元に問い合わせて、賞味(費)期限の期間を確認する。

→原材料の生産(収穫)時期を確認 ⇒震災後に収穫された原料にいつから切り替わるのか、又は、すでに震災後収穫の原料に切り替わっているか、どうかを確認する。

(例)醸造酢:賞味期限…2013年4月1日
→製造からの消費期限は3年。
→製造日は2010年4月1日。よって、現在市販されている物はまだ震災前商品です。

※原材料に放射能汚染がなくても、
→製造場所・製造日、製造方法などの影響を受ける事があります。

(例)粉ミルク…原材料は震災前外国産だったが、乾燥のための空気が汚染源といわれている。

(例)食品の洗浄や浸水に使用する水、キノコ栽培の原木や菌床おがくず、あく抜き用の灰など、汚染が指摘されています。どの様な影響で汚染が出るかは、測定してみないとわからない。

(例)表示が正しくない⇒汚染地域の原材料をブレンドした梅干しなど

◆測定しながら、情報を積み重ねる事で、汚染の予測や推論が出来るようになると、観察上手になれるそうです! これからも、一緒に情報交換をお願いします。

(宛名)

測定室活動日誌

- 3月9日(金) 川越市に学習会
講師として馬場参加
- 3月12日(月) 第8回 放射能を話そう♪
- 3月20日(火) 岐阜県中津川市
つながる命福島主催保養プロジェクト講演会
講師として馬場参加
- 3月22日(木) 測定室スタッフ会議
- 3月23日(金)～25日(日)静岡市
「親子わくわくピクニック実行委員会」
宮本、守屋参加
- 3月15日(木)～26日(月)測定室だより8号編集作業
- 3月27日(火)、28日(水) 印刷、製本作業
- 3月30日(金)『測定室だより』9号発行

現在の会員数

3月23日現在の会員数

特別会員	3人
団体会員	11人
会 員	130人
情報会員	96人
旧 会員	17人
合 計	257人

編集・発行：静岡放射能汚染測定室 事務局
〒420-0882 静岡市葵区安東 1-2-3 プラムフィールド内
TEL/FAX 054-209-2021 (月～金 10:00～16:00)
測定室Ph 070-5034-0920 (月～金 9:00～17:00)
e-Mail ssokuteisitu@yahoo.co.jp
URL http://sokuteisitu.plumfield9905.jp

プラムフィールドの窓・測定室の風

測定室の活動を再開するまではプラムフィールドのスタッフは八名。今は十名+α。

食べ物の共同購入や生活講座など、ゆっくりと長い間、活動してきましたが、測定を始める事になると、天の配材のように、新しいボランティア・スタッフがどんどん増えて、測定室はとても刺激的です。新人守屋さんが、これまた新人スタッフ・荒井さんを紹介しします。

■スタッフ 荒井静香さんを紹介しします。

名前のとおり、しずかでおっとりされている荒井さん。やんごとなきお方が測定室にいらっしやるような雰囲気があります。余計なおしやべりもせず、仕事を探しては、こつこつと作業をされています。昼食時間も帰宅時間もほぼきつちり。やはり【静御前】の生まれ変わり？時間にルーズでいい加減な私には、あこがれの存在です。

ちなみに8号のこのコーナーで私が出したクイズ〇〇の答えは『さけ』です。河野さんに「酒好き女」と命名されてしまいました！

守屋 司子

■スタッフのつぶやき

春がきました。春といえば桜です。今年も「桜前線」がニュースで知らされます。

「あなたのところの桜はいつ頃咲きますよ。」

とおしえてくれる国なんて、お洒落れ々ですね。

桜といえばーそうだ京都へ行こうー

京都のお寺のモノクロの庭園に鮮やかに浮かびあがる満開の桜・・・あの桜の木をながめつつ、やんごとなきお姫さまが恋に苦しみ涙を流したのかもしれない。

西行法師も詠んでいます。

「願わくば花の下にて春死なん、そのきさらぎの望月の頃」

京都の桜が見たい！そんな訳で(？)

今年もお花見に行こう！駿府公園へ。

荒井 静香